

2021 G2 オールカマー EZWIN 予想

		EZ-WIN総合評価シート			21.9.26 中山11R オールカマー(G2) 3歳上OP 芝2200m外 15:45																		
間隔	神の見解	予想印	枠番	馬番	馬名	性齢	負担重量	予想人気	相対指数	トレンド血統	最終調教評価	中間調教評価	脚質前走	脚質2前	脚質3前	血統・人気複率	血統複勝回収値	前距離複率	騎手	調教師	前走不利	レシビ	総合評価点数
21	△	○	1	1	美)ウインマリリン	牝4	55	3	B	注			8,4	2,3	2,7	44	121	28	横山武	手塚貴	展		60
5		★	1	2	美)ウインキートス	牝4	55	6	B	×			4,9	2,2	4,13	23	86	18	丹内祐	宗像義	展		46
15	△	△	2	3	美)セダブリランテス	牡7	56	8		注			4,16	2,12	2,3	29	310	18	石川裕	手塚貴	展		38
13		△	2	4	美)アドマイヤアルバ	セ6	56	16		×	D		11,11	4,7	7,7	7	251	0	柴田善	柄崎	R		16
6			3	5	美)ソッサスブレイ	セ7	56	15			▲	D	14,2	10,3	5,5	0	0	1	柴田大	粕谷昌	TR		33
19	△	◎	3	6	栗)ランプリングアレー	牝5	54	4	C	注		▲	11,3	9,3	7,2	50	104	40	戸崎圭	友道康			62
29			4	7	美)プレステイキング	牡6	56	14		注			3,15	2,13	7,2	7	104	1	石橋脩	姫宣行	R		37
16	▲		4	8	美)サトノソルタス	牡6	56	9					6,6	4,5	12,7	19	63	18	大野拓	姫宣行	R		21
11			5	9	栗)マウントゴールド	牡8	56	12					4,5	2,4	14,4	20	73	18	岩田望	池江泰			32
50		▲	5	10	栗)キングオブコージ	牡5	56	5	B			▲	11,2	15,1	5,2	29	57	28	横山典	安田翔	R		60
22	○		6	11	美)グローリーヴェイズ	牡6	57	2	B				海外	3,4	4,9	59	84	63	M. デ	尾関知			47
13	△	△	6	12	栗)レイパパレ	牝4	56	1	A		C	D	2,4	1,1	2,3	59	84	62	川田将	高野友	R		71
17			7	13	美)ゴールドギア	牡6	56	11					15,10	11,1	12,4	20	57	12	田辺裕	伊藤圭			24
6			7	14	栗)アールスター	牡6	56	13			▲		8,8	14,6	8,5	0	0	1	長岡禎	杉山晴			13
11		☆	8	15	美)ロザムール	牝5	54	10					1,8	2,15	1,6	20	57	18	三浦皇	上原博			6
5	◎	△	8	16	栗)ステイフーリッシュ	牡6	56	7		×		D	中止	2,7	5,8	20	73	18	横山和	矢作芳			15

例年、オールカマーは米国型を母父に持つディープ産駒が良く走りますが、今年の中山芝2200mでは、12頭のディープ産駒が出走して、馬券になったのは4頭のみと、ディープ産駒自体の成績の低下が見られております。

さらには、その4頭のうち、母父に米国型を持っていたのは1頭だけで、他は全て母父が欧州型と言う配合でございました。

週中の無料メルマガにも書かせて頂きましたが、レイパレは母父に米国型を持つディープ産駒。

しかも、牝系ファミリーの距離適性は2000mがピークで、2200mになると1勝も出来ていないと言う現実がございますな。宝塚記念で3着に敗れたのも「やむなし」と申せましょう。

ただ、宝塚記念とはメンバーの質が雲泥の差。能力の高さだけで勝ち負けする可能性もありますが、ここはあくまでも抑えの評価に留めます。

グローリーヴェイズも、母父に米国型を持つ「6歳秋のディープ牡駒」

そろそろ「お肌の曲がり角」が気になる年齢で、  
非根幹距離適性の低さも気になるところでございますな。

また、20週以上の休み明けは大きく負けている点も含め、  
「来られたらしゃあなし」でここは無印良品に。

キングオブコージは1年ぶりの競馬。  
ですが、社台コーポ白老の生産馬は、半年以上の休み明けでも  
2000m以上のレースで7人気以内に支持された場合には  
複勝率が44%と高い水準で馬券に絡んでおり、  
軽視は禁物でございましょう。

また管理する安田翔伍厩舎も、当コースへの出走機会は少ないものの  
4度の出走で掲示板を外したことが無く、先日のセントライト記念でも  
カレンルシェルブルが11人気4着に好走しておりました。

ちなみに、このカレンルシェルブルは父が欧州型ハービンジャー、母父が欧州指向の強いハーツクライと言う配合で、今の中山芝2200mが欧州指向の馬場になっている事の証しでもございましょう。

▲キングオブコージは、欧州型キングマンボ系ロードカナロア産駒で、母父は欧州型サドラーズ系ガリレオと言う欧州血統馬でございますな。

サンデー系の血が全く入っていない欧州指向の血統馬だけに、叩き良化型である可能性も否定できず、本命視はためらわれますが、それなりの評価は必要だと考えます。

さて、今年の中山芝2200mで活躍が目立つのは「ロベルト持ち」でございますな。

父か母父にロベルト系を持つ馬の好走が非常に目立っており、今年のメンバーでは該当馬が3頭と絞りやすいので、中心に据えるのはロベルト持ちの1頭を。

### ◎ランブリングアレー

ディーブインパクト×シンボリクリスエス(ロベルト系)配合馬。

伯父のトーセンラー(父ディーブインパクト)は、マイルチャンピオンS勝ち馬で天皇賞春2着馬。という非常に距離適性の幅が広い競走馬でございました。

また、牝系ファミリーは1800m・2200mの

非根幹距離巧者で、特に中山2200では連を外しておりませんし

中山1800mでも馬券圏外ゼロという「中山非根幹距離専用」ぶりでございますな。

そして、距離延長も非常に得意で、

1600mや1800mから2200mへの

極端な延長ローテでも堅実にこなします。

本馬自身、馬場の軽重を問わず走り、

非根幹距離の1800mでは、重賞3着が最低着順で

他の4戦は、中山牝馬Sを含め全て勝っております。

距離を不安視されているのか、

前走G1連対馬としては、あまり人気にならなさそうで、

ここはあえてこの馬から。

○ウインマリリン

□ベルト系スクリーンヒーロー産駒。

中山の中長距離路線では、「ウイン」の名が付くだけで絶対に外せぬ存在でございますな。

戦績だけ見れば「2200mあかんやん」ですが、

エリ女の4着は、追込み勢の馬券圏内独占のなか先行した分の負け。

AJCCは不良馬場に泣いたもの。

時計の掛かるウエットな馬場は苦手なようですので

乾いた馬場であれば、普通に勝ち負けに加わってまいりましょう。

他に、血統から押さえておきたいのは、

父の母父にメジロマックイーン。

父の母父にトニービン。

これに該当する種牡馬の産駒は押さえておくべきでございます。

★ウインキートス

△アドマイヤアルバ

☆ロザムール

レイパパレが掛からなければ強気に逃げるとも考えづらく、  
行き切れれば粘り強く、小回りコースや非根幹距離、特殊馬場、  
厳しい流れ、と言った非主流条件でこそこの馬には  
おあつらえ向きの舞台であり、  
得意な展開になりそうなメンバー構成でござれば、  
「うわ！残りよったがな」  
と言う場面も。

以下

△レイパパレ

△ステイフリーッシュ

△セダブリランテス